

会 議 録

会 議 名	令和4年度第3回小金井市市民協働推進委員会		
事 務 局	市民部 コミュニティ文化課		
開 催 日 時	令和4年12月23日(金) 18時30分～19時51分		
開 催 場 所	第五会議室		
出 席 委 員	田中敬文 委員長 邦永洋子 副委員長 森田眞希 委員 熊谷紀良 委員 西田 剛 委員		
欠 席 委 員	橋本 修 委員		
事 務 局 員	1 小金井市 コミュニティ文化課文化推進係長 岡本和晃 コミュニティ文化課文化推進係主任 津端友佳理 コミュニティ文化課文化推進係主事 佐原涼太 2 小金井市市民協働支援センター準備室 三崎 市民協働推進員		
傍 聴 の 可 否	一部不可		
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由	協働事業提案制度に関 する議題のため	傍聴者 数	1人
会 議 次 第	(1) 視察報告について (2) 協働理解促進研修について (3) 令和4年度実施協働事業提案制度について (4) 令和5年度実施協働事業提案制度について (5) その他		
会 議 結 果	別紙のとおり		
会 議 要 旨	別紙のとおり		
提 出 資 料	(1) 福生市輝き市民サポートセンターについて (2) 令和5年度実施協働事業提案制度(案)		

【田中委員長】 では、皆様おそろいになりましたので始めさせていただきます。皆様、こんばんは。

ただいまから令和4年度第3回小金井市市民協働推進委員会を開会いたします。本日の会議は傍聴可能となっておりますが、協働事業提案制度に関する議題については非公開となります。

それではまず配付資料の確認を事務局からお願いいたします。

【事務局】 資料の説明の前に、本日出席予定でありましたコミュニティ文化課長の河田が急用のため、本委員会を欠席とさせていただきます。申し訳ございません。

また、橋本委員も急遽来れなくなったと連絡がありましたので、お休みとなります。

それでは資料の確認をさせていただきます。本日の配付資料は次第を除いて合計2点となります。まず、資料1としまして「福生市輝き市民サポートセンターについて」と記載のあるもの、次に資料2としまして「令和5年度実施協働事業提案制度（案）」、以上2点、お手元にない方、また不備不足等ございましたらお申しつけください。

【田中委員長】 よろしいでしょうか。

それではまず1番「視察報告について」です。市民協働支援センター準備室から御報告をお願いいたします。

【事務局】 準備室の三崎です。こんばんは。よろしくお願ひします。

今月12月9日の金曜日に福生市輝き市民サポートセンターに視察に行っていました。こちらの御報告を申し上げます。資料の1としまして両面で、センターについての概要ですとか説明を頂きましたので、そちらを御用意いたしました。

こちらに参加したのは、こちらからは小金井市コミュニティ文化課、河田課長、岡本係長、佐原主事、それから社協からは近江屋と私、三崎です。福生市で御同席くださいましたのが協働推進課の課長さん、それから主査の方、社協のボランティア・市民活動センター副センター長さん、サポートセンター職員の方2名で、合計11名でお話を伺うことができました。伺いました内容としましてはセンターの運営状況、ボランティアセンターとの関係性等の確認、及び施設の見学を致しました。

こちらは福生市はなぜかといいますと、今後の小金井市の運営イメージに近い可能性があるのではという形で訪問の対象とさせていただきました。現在は市の直営から委託という形になっているそうですけれども、センター長さんは担当課長兼務であられて、全体の構図ですとか今後検討の必要なことについて、こちらの資料にもありますけれども、確認することができました。

全体的にはニーズの業務化が大変に速やかな印象で、ボランティアと市民活動の違いを探求されていまして、また、団体の紹介に、はがきサイズで団体を紹介するコーナーを設けていまして、工夫ですとか、今の世情を鑑みて、方向性の検討にいろいろ旬の話題を取り入れているなという印象がありました。

福生市としては、ボランティアは個人的なもので、市民活動は外部への認識とされていることで、それぞれの相談に応じた対応をされていて、開所時間は10時か

ら22時。十分というのではない人員かも知りませんが、相談の有無に応じてシフト業務で対応されているようでした。また、定期化されているスタッフの勉強会もおありのようで、団体とともに成長する自己啓発の姿も感じることができました。

現在、小金井市としましては、具体的にどのようにというところが難しいところもありますけれども、業務整備ですとかボランティアセンターとの位置づけの明示は今後必須のことですので、それによってどのように展開するかということを考えていく必要があるのではないかなど考えておりました。今年度は他市にも訪問を予定しておりまして、さらなる学びですとか比較の機会として準備したいと思っております。

以上です。

【田中委員長】 どうもありがとうございました。

委員の皆様から何か御質問等ございますでしょうか。

【西田委員】 よろしいですか。

【田中委員長】 お願いいたします。

【西田委員】 場所のことを何かおっしゃっていませんでしたでしょうかね。プチギャラリーという、本当に駅の中にあるような場所なんですけれども。

【事務局】 そうですね。ギャラリーということで、駅の横づけのエレベーターで4階に上がるとスペースがありまして、その下、2階と3階はギャラリーになっていて、で、2階が駅になっていて、駅から直接つながるようになっていました。そんなに大きいスペースではないですけども、会議スペースがきちっと1つおありで、あと必要なものもおそろいになっていらっしゃいましたし。そのような印象でした。

【西田委員】 ありがとうございます。

【森田委員】 開館時間は午前10時から午後10時になっているんですけども、何人ぐらいで回しているんでしょうかね。

【事務局】 スタッフの方はセンター直属というか、その方は2人なのです。土曜でしたけれども。社協の方ですかね、が、そこには来ていないけれども関わっている、運営自体は社協の運営になっていて、そういうところで実際には2人という形だったと思います。相談があれば2人体制をしいて。

【事務局】 そうです。いない場合は1人で対応して、予約が入っている場合は2人で対応するという感じになっています。ですので、人数はあまりいないので、いろんな施設を掛け持ちしながらうまく調整して、2人体制・1人体制をされているというお話です。

【田中委員長】 かなり大変ですよ。そういう意味では。10時までやるというところで本当に大変だと思います。

【邦永委員】 どういう形で。

【事務局】 常駐しているわけではないんですよ。常駐のスタッフもいるんですけど。2人ぐらいいらっしゃって、10時までいるんです。予約がない場合は常駐の人は10時まで1人いらっしゃって。

【森田委員】 それはすごい。

【事務局】 はい。

【西田委員】 でも、シフトは組んでいるんでしょうか。

【事務局】 シフトは組んでいらっしゃいました。

【西田委員】 午前10時から午後10時までの間で常駐している人が回しているということですか。

【事務局】 そうです。

【西田委員】 そういうことですね。

【事務局】 そうです。

【邦永委員】 総数が決まるんだったら、そのスタッフ数みたいなものが知りたいです。

【熊谷委員】 2人では難しいような感じがしますが。

【事務局】 5人で回していると伺いました。

【森田委員】 5人。

【事務局】 5人です。

【森田委員】 常に2人はいるということですか。

【事務局】 そうですね。2人います。

【事務局】 ただ、何もなかったら1人で対応するということでした。

【西田委員】 じゃあ、よろしいですか。フリーターキングになっていますけれども。

5人で回しているという勤務体系というか、仕事があったら来ているという、予約が入ったら来ているという方法なんですけど、予約が入っていないときは1人はいるんですけど、そのほかの人たちは、こう言うては何ですけれども何をしていますでしょうか。

【事務局】 シフトで組んでいる場合で、予約があるときに2人だけが残っている、ない場合はみんな職場にいない、夕方に帰っている形となっております。

【西田委員】 常日頃はどのような勤務をしているんですか、その5人は。

【事務局】 常日頃は、母体が社協さんなので、ボラセンとか、あとは今回の輝き市民サポートセンター、幾つか、あともう1つぐらい施設があるんですけど、その勤務を掛け持ちしているとのことでした。

【西田委員】 掛け持ちしていますか。

【事務局】 掛け持ちして人員を調整しているという形になっていました。で、専門の人は1人ぐらい、輝き市民サポートセンターでは1人いるとのことでした。

【西田委員】 課長が兼任って言っていたよね。センター長だと。その人は市の職員なんですか。

【事務局】 そうです。市の職員の課長です。

【西田委員】 サポートセンターというのを市が持っていて、運営が社協の人が入ってきて、共同で回しているという感覚ですね。

【事務局】 はい、そうです。

【西田委員】 常駐しているのは市職員ですか。

【事務局】 常駐しているのは社協の職員です。

【西田委員】 社協の職員。

【事務局】 はい。

【邦永委員】 先ほど、この福生輝き市民サポートセンターに視察に行った理由を、小金井市の形に近いというような説明があったわけですが、近くなるかもしれないというようなことで行ったというお話だった。どういうところが近くというふうに考えられた？

【事務局】 福生市は、小金井市と同じようにボラセンと、あと、この輝き市民サポートセンター、こちらは市民活動の協働の支援とかをできるような施設となっていて、他市だとボラセンと協働の部署が合体しているパターンもあります。今回は、ボラセンと協働の部署が分かれています。かつ、社協から委託を受けている点で小金井市と似ているなということで、今回お邪魔しております。

小金井もセンターをこれからどういうふうに委託をするか検討中ということで、どういうふうな形で、例えばボラセンと市民活動をどういうふうにすみ分けているのかなという点もお伺いしました。その辺りを聞いたところ、ボラセンと市民活動は結構似たようなところもある、かぶさっているところもあるんですけども、主に団体が市民活動のほうで、個人がボラセンに属するとすみ分けを行っているとのことでした。

【事務局】 そうですね。あと、ボランティアというのはやっぱり個人的なものであって、市民活動は外部につながっていくという形で、ちょっと構成も異なるというところで、その相談もどのような相談をしているかというところでちょっと気になってはいたんですけども。それぞれのところでやっぱり、さっき申しましたサポートセンターの職員さんは社協兼サポートセンター職員さんだったんですけども、どちらも見ていて、その相談内容の共有の仕方がなかなかとても上手というか、きちんとシフトの時ももちろんですけども、全体の相談の管理の仕方が上手だなという形の印象もありました。

【田中委員長】 ほかにはいかがでしょうか。

【熊谷委員】 すいません、1つ教えてください。この資料1の裏の一番最後に福生市登録団体、82団体と書いてありまして、分かる範囲で結構ですが、このうちNPO法人って幾つぐらいあるのか分かりますか。

【事務局】 すいません。そちらのほうの数は確認に至っておりませんので申し訳ないです。平成28年にこちら、再確認をしたときに100から70程度、登録団体の見直しをして狭めたというふうなことをおっしゃっていたので、その中のNPO法人の数をきちんと尋ねればよかったんですけども、すいません。

【熊谷委員】 そうなんですか。

【事務局】 すいません、補足しても大丈夫ですか。83の時の内訳を教えてください。NPO法人が8、町会・自治会が2、市民活動団体が73ということで、教えていただいたのはセンター開設当時は83団体ということで、今は82団体になっていると思われま。

【熊谷委員】 そうすると2団体、町内会が入っているということですね。

【事務局】 はい。そちらもこの中に登録団体として加えております。

【熊谷委員】 分かりました。

【田中委員長】 ほかにはいかがでしょうか。よろしいですか。もしまたお気づきの点がありましたら、事務局にお寄せいただければと思います。よろしいでしょうか。

次へ行かせていただきます。続いて2番「協働理解促進研修について」です。事務局から報告をお願いいたします。こちらは今年度から始まる新しい研修ということですが。

【事務局】 進捗状況の報告ということで、今日は資料とかはないんですけども、口頭にて御報告させていただきます。

昨年度の12月にこちらの委員会で「協働支援センターの開設に向けての協働の推進に関する意見書」という、ちょっと長いタイトルでこちらの意見書を頂きまして、その中でセンターの開設に向けて協働を理解するために、協働の研修を充実させていこうというようなお話を皆様から頂きまして、事務局でも協働理解促進研修ということで、今年から新しく始めた研修になります。

委託ということで、事業者さんと一緒に協力をしてやっているんですけども、ワークショップ型の研修ということで今組んでいただいております、なかなか面白いです。対話で進める場づくりということで、協働の一步ということで、対話が非常に重要なんじゃないかということをお話して。なかなかその対話って苦手としている方も多かったりとか、また職員と市民の方との対話もなかなか機会がなかったり、あってもちょっとなかなか進め方も気負ってしまったりというところもあるんですけども。この対話で進める場づくりをテーマに組みました。

場づくりのファシリテーション、進め方というところで、1つ以上、自分がこういうふうに進めていきたいというものを決意して、書いてもらえるような研修になるようにということで、四、五人で1つのグループを組んで進めているんですけども。一応、テーマがあって、まず最初のファシリテーションとはという情報を確認すると、次のステップが対話の場をつくるためにということで、皆さん同士で聞き合うというんですかね、話を聞き合うという作業をしてもらい、あと、私の取説づくりということで、自分の自己紹介ということで自分の取扱説明書をつくって、それを1人ずつ発表することをやってみたり。あと、発散型会議体験というものも含まれていて、その取説づくりをしながら、発表もしながら会議の進め方とかを学んでいくというものになるらしいんですけども。

私もちょっと今、業者さんからひとまず案を頂いて、それも先週あたりに頂いたものにはなるんですけども。すごく、今まで講演型だったりとか、1つのテーマを講師の方に講演していただくような機会が多い研修だったんですけども、職員の方と一緒に進めていくような内容になってきたなと思っていて、実際に実施するのが楽しみだなと思っております。

実際に実施するのが3月2日と9日の木曜日の午後になりまして、職員向けの研修ということで公開はしていないものにはなるんですけども、もし興味がおありでしたら、ぜひのぞいていただければと思います。

あと、この研修に合わせる予定になっていて、こちらはオンライン会議の進め方ということで、今ちょっと検討しているところです。コロナ禍になってきて、オンライ

ンでこういう委員会もやることが増えてきていることもあるので、そういったところでどういうふうにやっていったらいいのか、さっきのファシリテーションもそうなんですけれども、いいのかなというところとか、オンラインだからこそこういう点に注意したほうがいいよみたいなことをみんなで学び合うような研修を考えていて、そちらは3月20日にやる予定で、今年の研修は全部3月にぎゅっとしているんですけれども。また実施した感じで、皆様の御様子とか、そういったことを御報告できたらいいなと思っております。

以上になります。

【田中委員長】 どうもありがとうございます。

皆さんから今回の研修について御質問、あるいは今後の研修内容について何か御意見等ございますでしょうか。どうぞ。

【邦永委員】 大体何名ぐらいの方が研修に参加される？

【事務局】 大体20から30ぐらいの間に1回の研修を受けられたらいいなと思っております。こちらは会場の都合もあるんですけれども、会場の広さとあとコロナなので、ちょっと少なめに設定はしております。

【森田委員】 対象とか、希望制なんですか。

【事務局】 対象とはどういうことでしょうか。

【森田委員】 対象範囲。職員の方が手を挙げて行くとか、そういう形ですか。それとも何か係長だとかそういうこととかもあるのでしょうか。

【事務局】 今回、2回のうちの1回は主事、主任、係長誰でも来れるようなもので手挙げ方式のものと、あと係長が対象のものを1回ということで考えております。

【西田委員】 2回のうちのですね。

【事務局】 はい、実施は2回です。

【西田委員】 1つと、そういうことで。

【田中委員長】 ほかにはいかがでしょう。

【西田委員】 ごめんなさい。もう一回、日程を伺っても。3月8日と9日ですか。

【事務局】 3月の2日、木曜日になります。

【西田委員】 2日と9日ですかね。

【田中委員】 お話をお伺いしていたんですが、どこがその協働理解促進研修なのかなと思ひまして。むしろ、そういう名前はついていますが、まずそこへ行くまでの自己紹介とか、人へどういうふうに接するかという、そういった研修の場が、前の前のすごいイントロダクトリーな感じがしまして。例えばオンライン会議の進め方も、そんなものは当たり前みたいなことかと思うんですが。小金井市はまだまだそこができていないのかもしれませんが。そういう意味では、これはまだ入り口の入り口みたいな感じが私はすごくするんです。

【事務局】 すごく、まさにそこは私は、実は今回、業者さんとお話をするに当たっても、今、小金井市の協働ってどんな状況だろうということとか、皆様からこういう意見書が出てきて、こういうことを目指したいということとか、状況を実は1時間ぐらいその方々と一緒にお話をして内容を決めました。

【森田委員】 ごめんなさい。どの方々。

【事務局】 今回、アクティブラーナーズさんという委託先の方で研修の企画を考えていただく方と話し合っ、その方に、今、こういう状況なんですというお話をし、て。で、第一歩は何から始めたらいいだろうかというところで、まず、とにかく最初の一步ということで基礎からというところで、対話のところをまずは初めの一步としてやるのが適切なのではないかというところで、今回テーマが決まったというところになりまして。本当に協働の理解促進というところで、本当の基本という、まさにそういうところからお話が出てきたものになります。

【熊谷委員】 せっかく3回用意されているのであれば、機会をちゃんと利用したほうがいいと思うんですね。それでオンライン会議の進め方も、単にマイクがこうとかというんじゃなくてももう少し濃い内容にできたらいいですね。

【事務局】 そうですね。

【熊谷委員】 今日の資料の協働事業を取り上げていただいて、もしこれを例えばプレゼンをこういう形で会議でやったらどこをどういうふうにやったらいいとか、そういうふうにすぐ実務に直結するようなことをやっていただけると、すごく役に立つかなと思うんです。

【事務局】 そうですね。オンライン会議の進め方も、まさにここがどうなんですよというだけではなく。そうですね、なかなか協働といっても、話をするところから始まるというのが一番最初かなと思うんですけれど。なかなかその話をするのが難しいと感じてしまっている職員も結構多いかなと、担当としてはちょっと感じていた部分があったので。そういうところからまず一緒にできたらいいかなと思っております。

【田中委員長】 委員の皆様、いかがでしょう。やっぱりどういう場合で使うかというところが、それを受けてどうなのかというのは、やっぱり実際に協働に返ってくる、協働促進、協働していくためにどう使うのかというところでどうつながるのかみたいなのは、ちょっと考えを出してみてもいいと思いますし。それは多分市の職員の方だけの研修というよりは、やっぱり実際にNPOだとか、あるいはこの委員会の場でもそうだと思う。企画の段階から本当は御相談させていただけるとすごくいいなと改めて思ったんですけれども。やっぱりこれをどう使っていくのかというところを考えられたほうがすごくいいなと思っていますので。取りあえずそこまで研修の企画をされているわけですから、このような研修をされてどうだったのかという、リアクションだとかリフレクションを含めて、その後の次のステップの研修みたいなのは、ちょっと御一緒に考えさせていただけるといいのかなと思いました。

【事務局】 そうですね。

【熊谷委員】 特にこの後、今日の議題でもありますが、R5年度以降の実施で、今度はこちらの市の担当の係のほうから事業を具体的に提案していくという新しいシステムですから、そのシステムについても熟知していただいて、実際に提案があるように、研修が終わったらすぐに手が挙がって、こういうことをやってほしいということがいっぱい出てくるようなものでないと、ちょっとなかなか機会としてはもったいないかなと私は思っているところなんですよね。



【西田委員】 まあ、次につながるようなものを。単発で何かやって終わりということではないようにという意見で、皆さん、そういう意見なんでね。それをちょっと考えて、次年度以降につながるように。途切れてしまったら終わりになっちゃうみたいなものではよくない。

【事務局】 初めの一步というところなので、また次の一步もあると思って今後の内容を調整していきます。

【西田委員】 それも考えながら。それだったら今年は何しようという。ちょっと逆の発想でも考えてみてください。

【熊谷委員】 もう一つだけ。この中で多分、今まで協働事業提案制度でご一緒してきた団体が大分できてきていると思いますので、そういう団体と一度やっぱり、その後どうなのかということを含めて、改めて進め方について意見をもらったりだとか話していくだとか、あるいは一緒にやった協働を担当した課も入って対応していくだとか、何かそんなことを考えられるといいのかなと思いましたので。もし今後検討に入れられるようでしたら、提案させていただきたいなと思っています。

【田中委員長】 ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。

ひとつ、今日出た委員の皆様のご貴重な御意見をぜひ研修に生かして、その次のものにつながるように期待したいと思っています。よろしく願いいたします。よろしいでしょうか。

続きまして3番、令和4年度実施の協働事業提案制度についてです。これは会議を非公開とさせていただきますので、ここで少し休憩させていただきます。よろしいでしょうか。

(休憩・傍聴者退席)

ここから、協働事業提案制度の内容にかかると非公開

— 了 —